

＋ 三原赤十字病院



緩和ケア病床News

第4号 平成22年5月発行

緩和ケア推進委員会 事務局 地域医療連携課

緩和ケア病床稼働から2ヶ月を迎えて

緩和ケア病床の病室から満開の桜が見える季節となりました。当院の緩和ケア病床も開設から2ヶ月が過ぎようとしています。

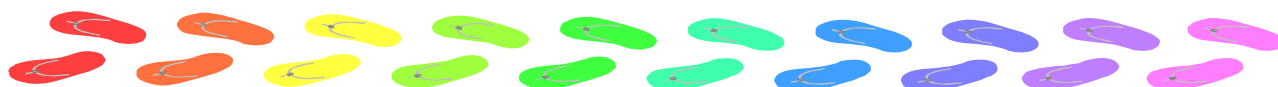
緩和ケア病床では、これまでに8名の患者様にご利用いただいています。この2ヶ月の間に新しい出会いと別れを経験しました。スタッフも開設当初からご利用いただいた患者様との別れに、寂しさと共に最期の時間を共に過ごさせていただいた達成感とで複雑な気持ちになることもありました。しかし、多くのことを患者様やご家族から学ぶ事ができたと感じています。

この2ヶ月に間に、結婚記念日を迎えられた患者様がおられました。ご本人様は、最後の結婚記念日だからと、奥様に大きな花束をご用意され、スタッフと内緒で、結婚記念日のパーティーをされました。パーティーの最後には、スタッフと一緒に記念撮影を行い、そのときの笑顔と奥様の涙がとても印象的でした。



この患者様から、このような言葉をかけていただきました。「緩和ケアの部屋ができて良かった。この部屋に入院できてよかった。この部屋では、みんなが自分の事を分かってくれている。誰も、『頑張れ』や『良くなってね』などの気休めの言葉をかけない。自分をあがるがままに受け入れて貰えた事、これが自分にとってどれだけ助かったか・・・」このような言葉をいただいたとき、私たちは身の引き締まる想いとともに、緩和ケアへ取り組んでよかったと改めて感じる事ができました。

私たちは、緩和ケアについて多くのことを学んでいかなくはなりません。少しでも患者様やご家族に、大切な時間を有意義にすごしていただけるよう、一生懸命努力していきたいと思えます。皆様からのご支援をよろしくお願い致します。



緩和ケア病床を開設して ～病棟看護師の決意～



緩和ケア病床担当師長 和氣 浩子

「5月に孫が生まれます。それまで生きてみたいです。」そう言うとおだやかに微笑まれるAさん(男性・57歳)は、ご自宅で療養生活をされていたとき食欲不振と強い痛みを訴え、外科病棟へ入院されていました。Aさんは、ご自宅でかかりつけ医や訪問看護ステーションのスタッフの協力を得て生活されている頃から、緩和ケア病床への入院を希望されており、平成22年2月22日の緩和ケア病床運用開始とともに入院されました。緩和ケア病床に始めてお迎えした患者さんです。

Aさんの緩和ケア病床での生活は、気分がいい日には売店で新聞を買い、デイコーナーでソファに腰掛け、好きなフォーク歌手のCDを聞きながら奥さんと一緒に過ごされていました。そんなとき、Aさんは私たちスタッフに、ふとこのようなお話をして下さいました。「今まで、緩和ケアについていろんな本を読んできました。どの本も、最期は『家が一番』と書いてあることが多かったけれど、こんなふうに大事な時間を家族と一緒に過ごす事が出来る病院もいいと思います。ここに来られて本当によかった。死ぬことは少しも怖いことではないのです。痛みがなくて毎日おだやかに過ごす事が出来る事が一番の贅沢だと思います。」。Aさんは、ガンと告知を受け、手術や抗癌剤治療をするなかで、本やインターネットなどを通じて情報収集を行い、自分の最期の過ごし方について家族と話し合いをされていたのでした。



また、平成22年3月12日の33回目の結婚記念日が近づいたある日、受け持ち看護師へ「入院していて何も出来ないけれど妻へ何かサプライズをしてやりたい。」といわれました。Aさんは奥さんに花束を準備しました。受け持ち看護師は、スタッフと共に33回目の結婚記念日にどんなお手伝いが出来るかを考え、記念写真とお茶のサービスをさせていただき事にしました。奥さんは、「こんな嬉しい結婚記念日は初めてです。」と喜ばれました。Aさんは、「サプライズ大成功。来年の結婚記念日はないからな。」と言いながらにこにこ笑っておられました。Aさんは、お孫さんに会うことができませんでした。結婚記念日から約3週間後ゆったりとした時間の中でご家族に見守られて旅立たれました。

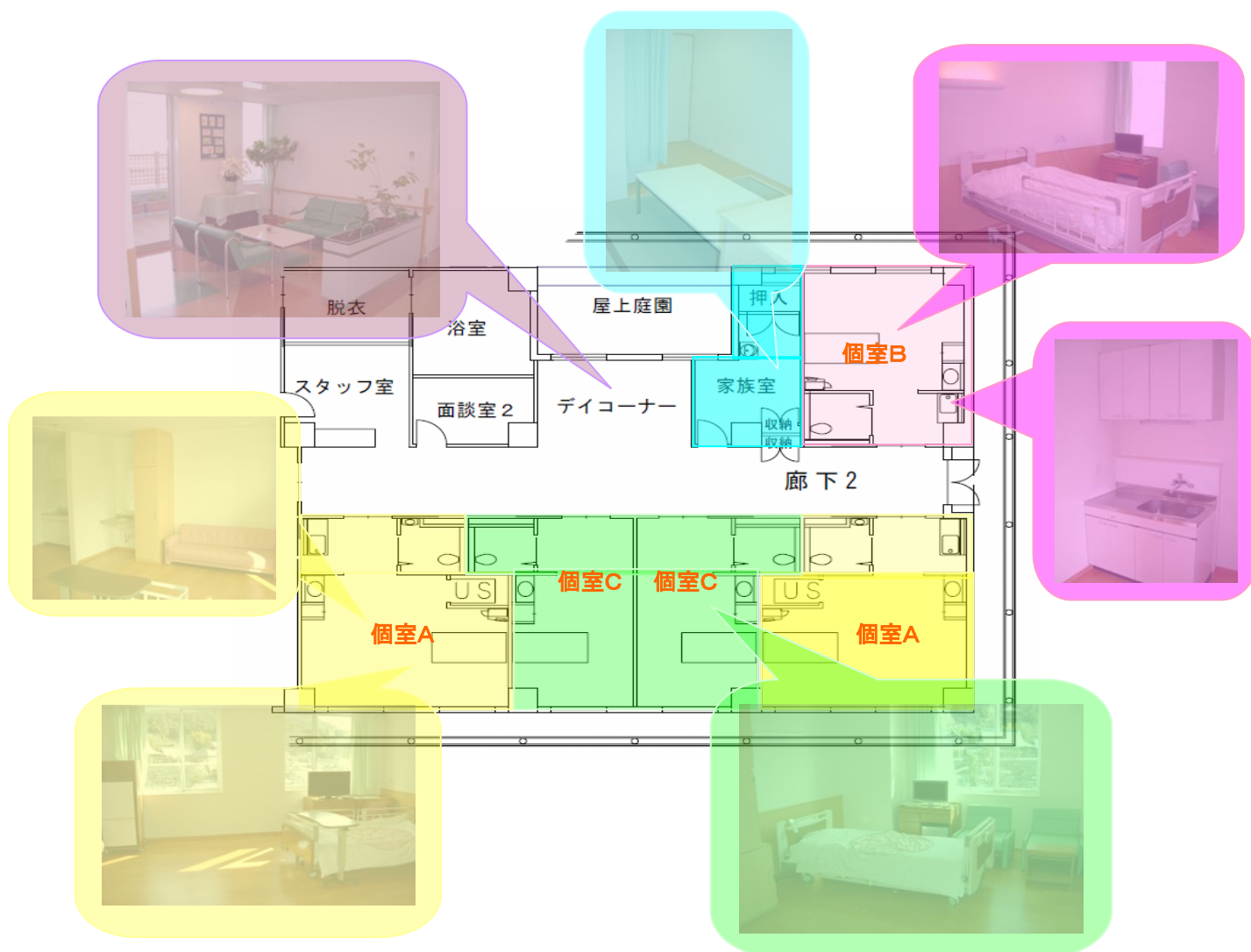


緩和ケア病床を開設して2ヶ月が過ぎようとしています。日々、「患者さまとご家族が最期の時まで、自分らしく生き抜けるよう、寄り添うことができているのだろうか。」とスタッフひとりひとりが自問自答しながら取り組んでいます。患者様が入院された際には、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフなどによるカンファレンスを行い、より良いケアが提供できるよう連携を図っています。

これからの課題は、地域の皆様からの入院のご依頼を頂いたとき、必要なときに迅速に入院できる体制づくりが必要であると考えます。また、患者様やご家族が社会とのつながりを持ち、社会的な孤独を軽減するなどを目的とした、ボランティア受け入れ準備もこれからです。三原赤十字病院緩和ケア病床は、「いのち」の尊厳を大切にすること、ひとりひとりの「いのち」をその人らしく生ききることをチーム医療で実践し、支えていきたいと考えています。



緩和ケア病床室料について



■ 病室の付属設備と室料差額

病室	室数	設備物品	室料差額 (1日・税込)
A	2	トイレ・シャワー・洗面台・収納棚・ミニキッチン・テレビ・大型冷蔵庫 ソファベッド(大型)	10,500円
B	1	トイレ・洗面台・収納棚・ミニキッチン・テレビ・冷蔵庫 ソファベッド(小型)	5,250円
C	2	トイレ・洗面台・収納棚・テレビ・冷蔵庫・ソファベッド(小型)	5,250円
家族室	1	洗面台・収納棚・押入れ(家族用布団)	0円

※ 全室個室です。

※ テレビ・冷蔵庫は無料でご利用可能です。タイプAの冷蔵庫は、冷蔵室・冷凍室をご利用いただけます。

※ 家族室は、緩和ケア病床をご利用の方であればどなたでもご利用可能です。

緩和ケア病床 入院のご希望・ご要望について

■ 入院の対象となる方

医師が治癒を望めないと判断した癌などの悪性腫瘍の患者様で、緩和ケアを望まれる方が対象です。

患者様とご家族がともに緩和ケアについて理解され、入院をご希望されていることが重要です。

また、外来や入院中の方で痛みなどの症状コントロールが困難な患者様や、在宅緩和ケアを受けている患者様で、ご家族の旅行や冠婚葬祭等、レスパイトケアを目的とした入院も可能です。

- ・ 認知症状などのために、緩和ケア病床区域の静寂が保てず、他の患者様の生活に影響を与えるような場合は、一般病床への入院をお願いする場合があります。
- ・ 入院に際しては、医師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの多職種にて入院判定を行います。
- ・ 入院の順番は、入院の申込み順を基本としておりますが、病状によっては前後する場合があります。

※ レスパイトケア…ご自宅で生活をしている患者様の入院によって、ご家族の介護疲れを癒していただく事です。

緩和ケア病床での主な医療サービス

- ① 痛み・食欲不振・息苦しさ・だるさなどの身体のつらさの緩和。
- ② 患者様やご家族の不安や心配事などの心のつらさの緩和。
- ③ 治癒を目的とした、抗癌剤治療や延命治療などには行いません。しかし、緩和を目的とした抗癌剤や放射線治療を行います。
- ④ 症状緩和に必要な検査や処置・治療は患者様やご家族と相談させていただきながら行います。

■ 入院のご案内・ご相談・見学をご希望の方は

三原赤十字病院 地域医療連携課へご連絡下さい。

入院相談予約を取らせていただきます。入院相談では、医療ソーシャルワーカーが、病状やお困りの事などのお話を伺うと共に、緩和ケア病床の説明などを行います。

入院相談へは、ご本人もしくは病状をよく理解されている方にご来院いただければ幸いです。

緩和ケア病床 入院相談予約

地域医療連携課 医療ソーシャルワーカーまで

0848-64-8111 (内線 288)

発行担当者(問合せ先)

三原赤十字病院 緩和ケア推進委員会 事務局 地域医療連携課

〒723-8512 三原市東町二丁目 7-1

TEL:(0848)64-8111 内線:288 FAX:(0848)64-8421(直通)